cross care NEWS vol.12

2023.05

誤嚥性肺炎ゼロプロジェクトに実際にご参加頂いている施設職員さんにインタビューを行い、リアルな声を隔月発行にてお届けしています。普段はなかなか聞くことのできない、ゼロプロの舞台裏をぜひお楽しみください。

interview

「これはいける」と確信しました

―ゼロプロを知ったきっかけは？

福岡で開催された九社連老人福祉施設協議会施設長研修会にて、瀧内先生の講演を聴講したことで誤嚥性肺炎ゼロプロジェクトのことを知りました。九州各地から特別養護老人ホームの施設長が年１回集まる会合ですね。

―どのような点が刺さりましたか？

私は理学療法士の資格を持っており、現在の高齢者施設以外にも新人の頃大阪府豊中市の小児施設で障害のある子どもたちの施設で勤務していました。「子どもは食事ができないと成長できない」ということで理学療法士の立場から、食べるときの口と姿勢の関連性などについて考えていました。

同様に高齢者も食事ができないと身体能力がどんどん弱くなってしまいます。子どもと違うのは、全身の柔軟性が低下し、嚥下が困難となる点です。その結果、誤嚥性肺炎を引き起こす確率も上がってしまいます。

そうした意味でゼロプロの「お口のリハビリを含む口腔ケア」のシステムアプローチは理にかなっていると思ったし、技術職の視点から介護職員が技術を身につけることの重要性を考えていたので、「これはいける」と確信しました。

一施設で取り組むのではなく、「組織」で取り組む

―久大ブロック施設連絡会の複数の法人で一斉に取り組むことになった背景についてお聞かせください。

私は、当会の研修委員も兼ねているのですが、福岡で瀧内先生と出会ったあと、大分県老人福祉施設協議会の久大ブロック施設連絡会で口腔ケア研修会を開催し、先生を講師としてお招きしました。受講者のみなさんの反応を通して、誤嚥性肺炎は一施設の問題でなく、沢山の施設の共通の悩みであると確信しました。

また以前、「抱え上げない介護」への取り組みの際に、日本ノーリフト協会を通じて組織的に導入を進めた実績からも、多くの施設で一斉に進めたほうが多職種連携にも繋がり、より良い効果が得られるのではないかと考えました。

大分県老人福祉施設協議会 副会長 /
特別養護老人ホーム若葉苑 施設長
原田 禎二さん

大分県老人福祉施設協議会では、2023 年 5 月 ~6 月にかけて久大ブロック施設連絡会の 5 法人にてゼロプロへの参加が始まりました。当会の副会長であり、今回参加を決めた特別養護老人ホーム若葉苑の施設長でもある原田さんに、複数の法人で一斉にゼロプロに取り組むに至った背景等お話を伺いました。

誤嚥性肺炎ゼロプロジェクトのデイサービスでの取組がスタートしました。

通所系でも職員様による肺炎予防の取組はもちろんのこと、「口腔機能向上加算」（150 単位 ×2 回 / 月・人）の取得支援を行っています。これは、今まで取りたくても計画書作成が煩雑だったり、何を実施したら良いか分からないという事業所様のお声を頂いたことがきっかけです。
そのため、収益面でもお役立ちできるため好評を頂いています。

「介護」を通して社会貢献をして「介護職」を認知してもらいたい

―将来像について教えてください。

まずは、介護職の口腔ケアの技術で誤嚥性肺炎を防ぐことができるのであれば、取り組むべきだと考えています。また、介護現場において「科学的介護」の重要性が叫ばれています。そのような状況下において、医療職の専門家を交えて OHAT のデータ分析を駆使し、システム的に多職種連携にて取り組まれているゼロプロは「効果あり」と確信しています。

これを踏まえ、介護の専門職でも科学的なエビデンスを用いた口腔ケアの技術を身につけ、介護の質の向上を目指します。介護現場から改革することで医療費の削減にも繋がり、「介護の専門職」の認知度が上がればと考えています。

編集後記

最後まで読んでくださり、ありがとうございます。今回の vol.12 では、ゼロプロを導入し始めたばかりの施設の方に取材させていただくという初めての取り組みでした。過去を振り返るかたちではなく、リアルタイムでのお声を聴かせていただくのはとても新鮮で、記事の内容もいつもとは違った角度になったのではないかと思います。　2023 年 5 月　川谷

＼check!!／

公式 LINE、instagram、YouTube にて情報を発信しています。 SNS

株式会社 クロスケアデンタル
編集担当：川谷
お問合せ：092-986-9600
info@crosscare-dental.jp